

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>									<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>									<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル				3.2	0.15		-		
1.2 遮音				3.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音		床、天井の二面に吸音材を採用		4.0	0.20		-		
<b>2 温熱環境</b>				2.4	0.35		-		2.4
2.1 室温制御				3.0	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38		-		
2 外皮性能				3.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20		-		
2.3 空調方式				1.0	0.30		-		
<b>3 光・視環境</b>				2.7	0.25		-		2.7
3.1 昼光利用				1.8	0.30		-		
1 昼光率				1.0	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30		-		
1 昼光制御				3.0	1.00		-		
3.3 照度		照度700lx		4.0	0.15		-		
3.4 照明制御				3.0	0.25		-		
<b>4 空気質環境</b>				3.1	0.25		-		3.1
4.1 発生源対策				3.0	0.50		-		
1 化学汚染物質				3.0	1.00		-		
4.2 換気				3.3	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.33		-		
2 自然換気性能				3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮		汚染源のない方位に設置、各種排気口との離隔距離6m以上		4.0	0.33		-		
4.3 運用管理				3.0	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50		-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30		-		3.2
<b>1 機能性</b>				2.6	0.40		-		2.6
1.1 機能性・使いやすさ				1.3	0.40		-		
1 広さ・収納性				1.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				2.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画				1.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30		-		
1 広さ感・景観		天井高3.0m、屋外の情報を得られる窓の設置		5.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		執務室の1%以上のリフレッシュスペース、自販機置場の確保		5.0	0.33		-		
3 内装計画				1.0	0.33		-		
1.3 維持管理				3.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い仕上材の採用、屋外防錆対策(溶融亜鉛メッキ、フッ素樹脂塗装)等		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				3.3	0.30		-		3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.4	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能		建物全体に揺れを抑える装置を導入		5.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.22		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.22		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	-		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.11		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水PEP(B)、排水VP(B)、冷媒CUP(C)、Eは不使用。		5.0	0.22		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.22		-		
2.4 信頼性				3.2	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20		-		
3 電気設備		非常用発電機・UPSの設置、電源設備及び精密機械の地下空間への設置を避けている。		4.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		精密機械の地下空間への設置を避けている。災害時は衛星携帯電話を使用し、UHF・BS・CSなどにより災害情報が入手できる。		4.0	0.20		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.9</b>	0.30	-	-	<b>3.9</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		工場:14,700N/m <sup>2</sup>	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	直天井や配管等配線により、仕上材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.39</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		まちなみの調和に配慮した色彩計画、緑地による良好な景観形成、視点場からの良好な景観形成への取組み	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		[BPI][BPI <sub>m</sub> ] = 0.68	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.50、LED照明設備を導入している。	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		自動水栓に加えて節水型便器を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.0</b>	0.60	-	-	<b>4.0</b>
2.1 材料使用量の削減		BCP柱、F.T. Pile構法、ハイベースNEO工法の採用	4.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ラウンジ等のビニル床タイル、事務室等のロックウール吸音板、壁等の断熱材に採用	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率76%	<b>3.9</b>	0.33	-	-	<b>3.9</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の設置なし	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場・駐車場及び荷捌き車両の駐車施設を設置している。周辺道路の渋滞緩和対策として駐車場の出入口は交差点から十分離れた位置に配置し、トラック待機場を設けている。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	